

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891100026		
法人名	株式会社 ケアホームなかお		
事業所名	グループホーム 香	ユニット名	
所在地	〒300-2505 茨城県常総市中妻町1023-2		
自己評価作成日	平成25年9月19日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0891100026-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年11月6日	評価機関 決 済 日	平成26年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域住民の方との交流が多く、特別な行事として年2回あり春の地域介護懇談会、地域交流会を行っています。地域介護懇談会では、常総市の介護保険課、地域包括支援センターの職員さんに協力して頂き認知症についての講習を受け地域の住民の方40名が認知症サポーターと認定されました。また、家族の代表と職員の介護体験発表や高齢者虐待防止の寸劇を行い笑い涙の懇談会となりました。第6回の地域交流会については利用者が主体になり地域の方と交流出来るよう計画中です。以上の様に地域の方と共にまた、家族の協力のもとに一人一人の歩んできた人生を大切にその人らしい生活を目標にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は幹線道路から車で2分程脇に入った場所に立地しており、周りは田園地帯が多く、住宅も点在するのどかな環境となっている。</p> <p>代表者は事業所自体が地域の一員となれるよう、災害時には事業所を避難場所として開放することとしているほか、地域住民の介護相談を受ける「介護相談窓口」を開設している。</p> <p>管理者は外出支援に力を注いでおり、年間の外出計画を立てて毎月季節の花を見物に出かけたり、近隣の観光地に出かけることができるよう支援しているほか、利用者の希望する店での外食を支援している。</p> <p>職員は排泄の自立に向けた支援に努めており、リハビリパンツと厚手パッドを使用している利用者に対して、行動を観察しながらトイレ誘導のタイミングを変えるなどの試みを2週間実施し、布パンツと薄手パッド使用へ改善を図り、費用軽減にもつなげている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域住民と共に笑顔を絶やさない生活環境を目指して」という理念のもとに地域のボランティアさんの訪問、また折に触れての外出活動と管理者を中心に職員一同理念に向けたサービスに努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、出勤時に確認ができるよう玄関に掲示しているほか、常時確認ができるよう台所にも掲示している。管理者と職員は月1回の全体会議時に理念を確認しながら共有し、実践に結び付けている。管理者は突然職員に「理念を言ってみて」と問いかけ、理念を再確認させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の飲食店での食事会や地域のボランティアの訪問、お花見等の外出活動を通じて地域の方と交流しています。地域の区長さんや老人会民生員さんに協力して頂き毎年、地域交流会や介護懇談会を開催しています。	毎年10月に利用者や家族等、地域住民との交流を目的とした事業所主催の「地域交流会」を開催し、家族等や地域住民を招待して利用者が交流できるよう支援している。 「地域交流会」では近隣の中学校の吹奏楽団による演奏や筑波大学生の和太鼓演奏などの出演があるほか、果物や花、野菜などが並ぶバザーを開催し、200人程の参加を得ている。 2ヶ月に1回オカリナ演奏やハーブ演奏、フラダンスなどのボランティアを受け入れ、地域住民も利用者と一緒に楽しむなど、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう支援している。 近隣住民からの依頼を受けて事業所に「介護相談窓口」を設け、地域の人々に介護の知識を教えたり、相談にのるなどして地域住民から喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に地域の住民から介護相談を受け関係機関と連携を取り支援しています。今年は事業所主催で認知症の講習会を行い認知症サポーターの養成をしました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には利用者さんの家族をはじめ市の担当者、区長、民生員、老人会、市議会議員等多くの方の意見の交換の場として2カ月に1度開催しています。最近ではホームでの看取りについて意見交換を行いました。	運営推進会議は家族等の代表や市担当者、区長、民生委員、代表者、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 区長から「事業所で開催する催しを多くの地域住民に周知するため、チラシを地区の回覧板で一緒に回覧してはどうか」との提案があり、回覧してもらっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者や包括支援センターに運営上の疑問点を相談し指導を受けるとともに運営推進会議や認定調査、敬老のお祝いの訪問時等それぞれの担当者に折に触れて利用者の生活の様子を報告し実際に見てもらえるよう依頼して意見を求めています。	管理者は要介護更新認定の申請などで毎月市担当者を訪問し、運営状況や空き状況を報告して協力関係を築くように取り組んでいる。 市担当者から介護保険制度の改正や研修、お知らせなどが随時メールで届くほか、管理者は介護保険制度の疑問点などを相談しており、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも、どなたにも開かれた事業所をモットーに施錠はしていません。どんなことがあっても拘束をしない介護を実施しています。夜間の起床時に転倒の危険のある利用者にはドアに鈴をつけ鈴の音やセンサーマットの利用で転倒の予防が出来るよう工夫しています。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記するとともに、職員は月1回の全体会議で身体拘束の状態になっていないか確認し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。 身体拘束排除委員会を設置し、委員が中心となって身体拘束をしないケアの研修を実施しており、全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止についての勉強会を行っています。職員の何気ない態度や言葉使いが虐待にならないか利用者さん一人ひとりの対応方法について意見交換をし支援しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を定期的に行い、必要と考えられる利用者には活用できるよう支援できる体制を整えています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には十分な説明をし、世間話をしたり雑談の中で利用者や家族が不安や疑問点を気軽に話せるような雰囲気作りに努めています。制度の変更やあらたな料金が発生する時は再度丁寧に説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時は必ず職員が要望、意見を伺っています。意思表示の難しい利用者についてもその時の表情から気持ちを理解し何をしてほしいのかを考えながら支援しています。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くよう努めている。 利用者から映画「男はつらいよ」を観たいとの要望があり、いつでも鑑賞ができるようDVDを購入している。 家族等から出た「利用者と職員で吊るし雛を作ってはどうか」との提案を受け、利用者と家族等、職員で制作して飾っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会には全員が発言できるような場を設けています。代表者や管理者は利用者と職員の間で意見の交換が出来るよう配慮している。	管理者は月1回の全体会議時に職員の意見や提案を聴く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 職員から「車いす使用の利用者の体重測定は、これまで職員が利用者を抱えて測定していたが、正確に測定するため車いすごと測定できる体重測定器を購入して欲しい」との要望を受けて購入するなど、職員の意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ベテランから新人まで必ず全員が役割をもち責任のある仕事ができるような体制作りに努めている。イベント等の実行委員も全員が交代で行っている。勤務体系もチームワークの中で決定し自主的に職場環境作りに参加している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加し資格の取得やスキルアップが出来るよう勤務体系や費用の面で援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	関係機関の訪問看護師や介護支援専門員からの情報を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初めての面会時には特に安心できる環境に留意し、何よりも本人が気兼ねなく気持ちを出出来るよう傾聴し信頼関係の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月の家族への手紙（本人の生活の様子）やホームの機関紙を参考に説明し生活の実態を知らせることで不安が解消できるようまた、要望が具体的に出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者や介護支援専門員と連携し必要なサービスを検討し、当事業所で出来るサービスや他の事業所で出来るサービスも含め説明しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各個人の生活歴を尊重し出来ることしたいことを共に考え生活に反映できるよう努めている。家庭内の様に共に家事や食事をする中で会話が弾み時には楽しく時には痛みを分かち合いながら生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には生活の様子を毎月の手紙で伝え、面会が疎遠な家族に対しては誕生会や各行事に招待して共に過ごせる時間が持てるよう提案している。利用者が体調を崩した際は毎日家族が交代で面会できるよう支援しました。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷の話をしたり、子供の頃遊んだ神社に出かけたりしています。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴いて、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の馴染みの友人や親戚が来訪した際にはお茶を出して居心地よく過ごせるように努め、馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。 職員は利用者が行き慣れた神社や墓参りに同行したり、家族等の協力を得ながら行き付けの美容室の継続利用を支援するなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や、症状を考慮し余暇活動のグループ作りや食事の時の席に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った利用者の家族に対し必要に応じて相談にのっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	食事の好みや余暇の過ごし方、入浴の時間等一人一人の意向をふまえた対応をしている。	管理者や職員は入居時のアセスメントから利用者の生活歴を把握しているほか、日々の係わりの中で会話や行動を観察しながら利用者の思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の場合は、表情やしぐさから判断したり、家族等から情報を得ているほか、職員で話し合っ利用者の思いなどを汲み取るよう努めている。 把握した内容は「個人ファイル」と職員で知り得た情報を記録する「連絡ノート」に記載し、全職員で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接では聞き取れない部分は、日常生活の会話やしぐさの中で慣れ親しんだ生活を把握しサービスに反映できるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人に寄り添い生活を把握し記録することで職員間の連携を図りカンファレンスを行い支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のサービスの中での変化を見逃さず職員全員で情報を共有しアセスメント、モニタリングを実施し介護計画を作成している。	介護計画は月1回カンファレンスを行い、利用者や家族等の意見や要望、医師や職員の意見を取り入れて作成するとともに、毎月モニタリングを実施して見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。 利用者のニーズが十分に抽出されるよう、利用者一人ひとりに担当職員を決め、アセスメントツールの「ひもときシート」を利用しながら全職員で話し合っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、業務日誌、連絡ノート、医療連携記録を活用し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の送迎や付き添い行政への申請等家族と連携を図り必要に応じて支援している。家族の希望によりホーム内の空きスペースで家族一同が集まり新年会や敬老のお祝いを行う等の支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の指導を受け防災訓練を年2回実施しています。地域包括支援センターの協力を受け介護教室の開催、多くのボランティアによるアニマルセラピー、日舞やソーシャルダンスの観賞、中学生のブラスバンドやハンドベルの会の演奏会等を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な協力医による訪問診療、訪問看護を受けています。また、家族との連携を密にし症状によっては随時大学病院や歯科、眼科への通院や緊急病院の受診の支援をしています。	契約時に利用者や家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医への受診を支援するとともに、協力医療機関への受診も支援している。 かかりつけ医への受診に職員が同行し、受診結果はその都度家族等に電話で報告している。 事業所の協力医療機関は2ヶ所あり、月1回と月2回の訪問診療が受診できる体制となっているほか、利用者は希望の協力医療機関を受診することができ、結果は家族等に電話や面会時に報告するとともに、「個人ファイル」や「連絡ノート」に記録して全職員で共有している。 週1回協力医療機関の看護師が来訪し、利用者の体調チェックと健康管理を行っている。 職員は看護師が利用者の体調や支援方法などを記録している「看護ノート」で共有を図り、利用者の支援に役立っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護の時は各利用者の病状や変化について細かく連携し健康管理に努めています。一人ひとりの利用者の生活の様子をゆとりを持って見てもらったり、一緒に食事をするなどで生活面でも指導を受け日々の健康に留意しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には各医療機関と情報の共有が出来るよう連携しています。入院中は頻回に面会に行き家族の意向を尊重し医師や医療相談員と連携し早期退院できるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りについての意向を確認し同意書を作成しています。重度化した場合は、早い段階で医師の説明を受け家族と十分に話し合い対応方針を決めています。職員の対応については全員で話し合い家族と共に納得のいく介護が出来るよう努力しています。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を説明し、同意を得ている。重要事項説明書に重度化や終末期の事業所の対応指針を記載するとともに、看取りに向けた意思確認を段階的に行うことなどを明記している。事業所は看取りの経験はないが、全体会議などで定期的に「ターミナルケアマニュアル」を基に全職員で研修をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル、連絡網を作成しています。消防署の指導を受け救急救命の講習会を受けています。AEDの設置をし使用方法の訓練を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施しています。その都度時間や災害の想定を変えて行い、地域住民の方には緊急連絡装置の設置の協力を得ています。飲料水や食料品等の備蓄をしています。	避難訓練は消防署立会いのもと近隣住民の参加を得ながら年2回実施し、うち1回は夜間想定での避難訓練を実施している。訓練では通報や避難誘導などにかかった時間を秒単位で計るとともに、訓練後に反省点や今後の課題などを話し合って記録に残している。事業所の非常事態を通報するブザーが地域住民の代表者宅に設置されており、非常事態時にブザーで知らせると、連絡網で近隣住民が応援に来てくれる体制となっている。事業所が地域住民の避難場所となっている。災害時に備えて水やレトルト御飯、カンパン、缶詰、毛布、座布団、リハビリパンツ、ランタンなどを備蓄しているが、一覧表を作成して数量や賞味期限を管理するまでには至っていない。	備蓄品は数量や賞味期限などを記載した一覧表を作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者が歩んできた人生を理解し尊重するとともに、常に一人ひとりの心に寄り添い支援できるよう心がけています。	管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援している。 職員はトイレ誘導時には利用者に小声で声をかけるほか、トイレのドアを閉めて扉の外で待つなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務所の奥にある部屋の施錠ができる保管庫に保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や行動から心的心声を聴きとり気持ちをくみ取れるよう努めています。意思表示が出来ない利用者に対しては希望の表出が出来るような声かけに留意しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事、入浴の時間を提案はするものの本人の希望を尊重し自由に行っています。余暇活動も本人の希望に添えるよう個別に提案しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行ったり、家族の手により染髪をしたりとそれぞれにおしゃれを楽しんでもらっている。その日の服装についても本人に選んでもらえるよう支援しています。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜を利用したり、下ごしらえや食後の食器の片付けに参加してもらっています。お弁当を持って公園で食事したり飲食店で外食を楽しんだりしています。	献立は利用者の希望を聞きながら、代表者の親戚の管理栄養士がカロリー計算した献立の食事を提供し、食材は利用者と職員で買出しに行き、職員が調理をしている。 利用者は職員と一緒に調理の下準備やおしぼりたたみ、食器拭きなど、できる範囲で行っている。 代表者や職員が自家菜園できゅうりや茄子、ピーマン、オクラ、トマト、白菜、小松菜、ほうれん草、じゃがいも、南瓜などを作り、新鮮な野菜を食材に取り入れている。 誕生会にはケーキで祝ったり、行事時には特別食を提供しているほか、外食に出かけたりして食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の量は毎回記録して健康管理をしています。体調に合わせて食事形態や内容を変えています。食の細かい方には完食の満足感を得られるよう1回の量を調節し間食で調整できるよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの方法で口腔ケアが出来るよう声かけ支援しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを確認し声かけ誘導を行い失敗の予防に努めています。日中はオムツ利用者もトイレで排泄しています。リハビリパンツやパットの交換時も下着を交換するようにさりげなく行い本人の尊厳を守れるよう支援している。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。 職員はリハビリパンツと厚手のパッドを使用している一部の利用者に対して、トイレ誘導のタイミングを変えたり、利用者の行動を観察したりすることにより、布パンツ使用への改善を図る試みを2週間実施したところ、布パンツ使用や薄手パッド使用が可能になり、経済的負担も軽減することができている。 この経験を踏まえて、今後他の利用者にも試みることをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事の提供し水分の摂取をうながし便秘の予防に努めています。また、腹部を刺激するような体操を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日や時間を決めることなく個々人の希望や体調に合わせて入浴できるよう努めています。入浴を拒否する方に対しては、時間帯や自宅での入浴の様子を家族から聞き取り自分のスタイルで入浴できるよう支援しています。	風呂は毎日沸かし、週3回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた対応をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、「明日お出かけするから、綺麗になりましょう」や「温泉に入りましょう」など、利用者の興味のある話をしながらさりげなく風呂場へ誘導するなど、工夫して入浴ができるよう支援している。 柚子を入れて季節感を取り入れたり、温泉気分が味わえるよう入浴剤を使用するなど、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝は個人の生活パターンに合わせています。夜間覚醒している利用者にはリビングで過ごしてもらい安全の確保に努めるとともに翌日適度な休養をとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が一人ひとりの服薬の内容を理解し、服薬の確認をしています。飲み忘れや誤薬の予防のため個人のセット時と服薬時の二重にチェックしています。医師や薬剤師から定期的の説明を受け、症状に変化のあった時は速やかに報告し指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝いや、余暇活動の内容を記録し本人の取り組み方や満足度を職員全員で話し合い楽しく役割を持った生活が出来るよう努めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけ近隣の方と立ち話をしたり、公園に出かけたりまた、季節の花見に行ったりと多くの外出活動を行っています。可能の方は家族との外出の支援もしています。	天気の良い日には利用者と職員で事業所の周辺の農道を散歩したり、近隣住民宅の庭に咲く花を観に行くなど、利用者が気軽に外気にふれられるよう支援している。 毎月季節の花を見物する外出行事を年間計画に組み込むとともに、ドライブを兼ねて近隣の公園で弁当を食べるなど、四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるよう支援している。 職員は利用者の希望で外出する場合は、事前にトイレや駐車場、休憩場所などを下見している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの家族と相談し買い物の希望や、お金を所持することで安心感を持てる方については管理の方法をとりきめて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取り次ぎや家族に電話をかける希望があった時は、家族の生活に支障がないように配慮し対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を生けたり共同で飾り付けをしたり季節感を取り入れています。共用空間は廊下や玄関が家庭より広いスペースになっているものの一般家庭の様な雰囲気作りを心がけています。	玄関は棚に消毒薬を置いて衛生管理をしているほか、利用者が靴を履いたり脱いだりする時の転倒防止に長椅子を配置している。 居間兼食堂に向かう廊下は車いす同士がすれ違えるよう、十分な広さを確保している。 廊下の隅には職員が普段から季節の花を花瓶に活けて飾っているほか、廊下の壁には利用者と職員が一緒に折り紙で制作した季節の花の作品を飾り、季節感のある空間づくりをしている。 雛祭りには利用者と職員で制作した「吊るし雛」を飾っており、その写真が雑誌「月刊DAY」に掲載されている。 居間兼食堂の窓からは自然の光が入り、職員は窓やベランダに出られる扉から外気を取り入れて換気や温度調節を行い、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫しグループや一人で過ごせるようにしています。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や持ち物は馴染みのある使い慣れたものを使用できるようにしています。家具の配等も家族と話し合い決めて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等には手すりをつけて安全に移動できるようにしています。また、本人の起き上がりや移動手段に応じて安全に行えるよう家具を配置しています。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 香

作成日 平成26年3月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	備蓄品は数量や賞味期限などを記載した一覧表を作成して管理することを期待す。	備蓄品の内容をもう一度確認し、さらに必要な物品等の検討をし災害時の対応を万全なものにしていく。	<ul style="list-style-type: none">・備蓄品の一覧表を作成し数量や賞味期限の確認をする。・さらに必要なものがないか検討し備蓄する。・賞味期限のあるものについては、随時消費し新しいものに更新する。	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。